

公衆衛生看護学実習

[講義・実習] 第4学年 後期 選択
(保健師養成コース限定必修) 5単位

《担当者名》 明野 聖子 naga-s@hoku-iryu-u.ac.jp 表山 知里

【概要】

組織（学校、産業の場）及び、地域住民（保健所、市町村）の健康課題を多様な情報からアセスメントし、課題解決に向けて個人・家族を支援する方法を学ぶ。さらに、社会資源を活用・開発して地域全体の健康と生活を維持・向上するシステム構築に携わる保健師としての基礎的知識、技術、態度を習得する。

【学修目標】

1. 健康を守る主体は住民であることを理解し人々の持つ力を見出すことができる。
2. 住民の多様な生活と価値観を理解し、ニーズ（健康課題）を明確化できる。
3. 公衆衛生看護活動の方法を理解し、対象者に合わせた支援の展開ができる。
4. 地域の健康課題を解決するための公衆衛生看護管理・連携・施策化の意義と方法を理解できる。
5. 地域の健康危機管理体制を理解し、予防策を説明できる。
6. 公衆衛生看護の多様な対象と活動の場に応じた実践を理解できる（学校、産業）。
7. 主体的・継続的に学び、事項の知識・技能を向上させることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9月	様々な場における公衆衛生看護活動	1)産業保健実習 2)学校保健実習	明野 表山
10～11月	都道府県、政令指定都市の保健所における公衆衛生活動	1)保健所の機能と役割の理解 2)保健所の保健師活動の理解 3)健康危機管理と保健師活動 4)保健所の活動における公衆衛生看護管理	明野 表山
11月	市区町村における公衆衛生看護活動	1)市区町村の保健福祉施策の理解 2)地域全体の健康を高める支援の理解と実践 3)集団への支援の理解と実践 住民組織の活動の見学、健康教育の実践 4)個人・家族への支援の理解と実践 家庭訪問、健康相談、健診、事例検討会 5)地域包括ケアのあり方と実践	明野 表山
12月	保健所における実習	1)公衆衛生看護管理の実際 2)健康課題の明確化と解決のための施策化	明野 表山

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

以下の項目を総合し評価する。 出欠22%、 記録物（日々の学び、家庭訪問、まとめのレポート等）25%、
発表（カンファレンス、実習報告会）19%、 実習目標の達成度26%、 多様な場の活動（学校、産業）8%

【教科書】

1. 標美奈子他編著：公衆衛生看護学概論、医学書院
2. 佐伯和子編著：公衆衛生看護学テキスト2、公衆衛生看護の方法と技術、医歯薬出版株式会社
3. 中谷芳美他編著：対象別公衆衛生看護活動、医学書院
4. 佐伯和子編著：地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド、医歯薬出版株式会社
5. 公益社団法人 日本看護協会：そうだ!事例検討会をやるう!“実践力事例検討会”～みて・考え・理解して～
<https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/hokenshido/2014/25-hokensido-01.pdf>

【備考】

1. 実習では、パソコンでの記録作成と自宅でのプリントアウトを必須とする。
2. パソコン、プリンターの整備をしておくこと。
3. 実習に関する記録の配信・提出には、Google Classroomを活用する。
4. 実習目標の達成度の把握等のために、Google Formを活用する。

【学修の準備】

1. 実習開始前の準備

授業、演習の資料及び記録物整理とファイリング（9月から10月の平日、毎日30分程度）

2. 実習期間に入ってから学習の準備

- 1) 実習要項の関連ページを読む（10分）
- 2) 記録様式1の翌日の実習予定、目標の記入（10分）
- 3) 翌日の実習内容の予習（1時間程度）

オリエンテーション（関連資料の読み込み、質問事項の整理）

地域理解報告、地区踏査（関連資料の読み込み、社会資源の確認等）

家庭訪問（病態生理、支援方法、社会資源等）

健康教育（情報の追加・確認、プレゼンの練習）

健診（健診目的、問診、計測の方法、意味、連携する職種の役割の学習など）

カンファレンス、事例検討（実習記録の読み直し、学びと疑問などのメモの作成）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実習施設・実習期間】

1. 学校保健現場（小中学校）1日
2. 産業保健現場（健診・健康教育機関）1日
3. 保健所 5日程度
4. 市区町村保健センター（一部地域で地域包括支援センターを含む）15日程度
5. 学内等 3日程度

【実務経験】

明野聖子（保健師）、表山知里（保健師）

【実務経験を活かした教育内容】

組織（学校、産業の場）及び、地域住民（保健所、市町村）の健康課題を多様な情報からアセスメントし、課題解決に向けて個人・家族を支援する方法、社会資源を活用・開発して地域全体の健康と生活を維持・向上するシステム構築方法について、保健師としての実践を踏まえて、学生の思考・行動に助言する。